

驚きのリユース型 ディスプレイを提供

株式会社ゼンシン

異業種で学んだ知識とスキルを、舞台設営のスピードアップに生かす

創業以前から、滋賀県長浜市の実家で鉄工所の仕事をする傍ら、当時のお客さまであるマネキンディスプレイ会社のアルバイトをしていたという前田雄一さん。あるホテルでブライダルフェアが行われたとき、その木工作業的な会場設営・施工の方法を見て驚いたという。例えば、ファッションショーの舞台を作るのに、床机台をいくつも並べ、職人が一つひとつ釘でつないで組み立てていく。「自分たちがディスプレイ用のステージを作る場合、90センチメートル四方の軽量アルミ材を磁石でパチパチと張り合わせるだけ。コストがかからず、早い」という。

マネキン業界での経験を展示会の世界で生かせないか…。早速、舞台設営のユニット化をホテルに提案したところ、これまで6時間以上かかっていた設営時間がわずか2時間に短縮されるなど、大きな成果を上げることができた。その後、半年ほどの間で滋賀県中のホテルのブライダルフェアを任せられるようになったという。「伝統的な工法やノウハウが連続と守られてきた業界。新しい発想で目を凝らせば、ビジネスチャンスはたくさん見つかる」と話す。

リユース可能なユニットシステムを提案し、エコ時代の付加価値を発信

同社が取り扱う商品は、コンパクトで省エネにこだわったものが多い。例えば、自分で組み立てができるセルフ方式の展示ブース。キャリアバッグに詰めて一人で持ち運ぶことが可能で、パタパタと広げればポップアップディスプレイや受付カウンターなど、出展に必要なアイテムが一通り揃う。そのほか、折り畳まれたフレームを伸ばすだけでスピード設置できる記者会見用のバックパネル、柱と梁の組み合わせでサイズを自由設計できるガラスケースなど、顧客ニーズに応じた多様なバリエーションを用意。業界全体で環境への対応が求められる中、リユース可能なエコロジー商品に注目が集まっている。「複雑なものを見れば、何でもユニット化できないかと考える」と前田さん。こうした視点で開発されたのが、次世代型の「仮囲いシステムECOPA(エコパ)」。商業施設などで店舗の改装や入替が行われるとき、店舗の周りを覆い隠す囲いを立てる。一般的には、施工会社がその場で寸法を測り、アルミ材や石膏ボードをカットして組み立てていくが、「騒音やホコリが漏れ、廃材も出る」という。「ECOPA」の大きな特徴は、天井高に合わせて1.8メートルから3メートル強まで伸縮でき、材料をカットする必要がないということ。廃棄物はゼロ。軽量パネルを天井と床にはめ込むだけで、どこでも容易に設置できるといふ。昨年10月には、中小企業新事業活動促進法に基づく京都府「経営革新計画」ならびに中小企業応援条例に基づく京都府「元気印中小企業」の認定を受けるなど、社会的な認知度も高まっている。

「こうしたクリーンシステムは、エコ時代における付加価値となる」。元々、仮囲いの設置・撤去は、入退店する店舗が施工会社に個別発注するのが慣例だった。しかし、前田さんは、既存の無理・無駄な施工方法に疑問を感じていた商業施設の管理会社の相談を受け、「ECOPA」を開発。施設内にある全店舗の仮囲い工事を一手に引き受けることになった。「せっかくなので素晴らしい商品を開発しても、売り方を間違えたら利益につながらないこともある」と強調し、商業施設を運営する管理会社に直接セールスを実施していききたいという。

デジタル技術を駆使した広告手法で、無機質な壁を魅力あふれる空間に

「人気商業施設の仮囲いは、絶好の広告媒体になる」。前田さんは今、仮囲いとデジタル技術の融合を模索している。ただ単に「〇月〇日オープン」という告知を壁に張っておくのではなく、例えば昼間は主婦向けの広告を、夕方は学校帰りの女子高生向けの広告を…というように、ターゲット別の広告映像をディスプレイに流せば、より効果的な宣伝活動が期待できるはずだ。また、ケータイなどの情報端末システムと組み合わせることで、顧客情報をうまく収集する仕組みも考えられるだろう。「デジタルサイネージ(電子看板)を活用したビジネスモデルを開拓していきたい」と意気込みを示す。

新鋭企業ならではの固定観念にとらわれない発想と、バイタリティあふれる行動力で実績を拡大する「ゼンシン」。これからも、スピード化時代に応じた展示会システムの提供で、企業の価値やブランド力を高める「空間総合プロデューサー」をめざす。

展示会やイベントの企画・運営、什器販売・レンタルなどを手がける「ゼンシン」。ライバル企業がひしめき合う中、高度にシステム化されたユニット商品などで、他社とは一線を画した独自の市場を確立。創業10年目の新鋭企業ながら、新たな顧客開拓につなげている。



< DATA >
株式会社ゼンシン
代表者/前田 雄一
住所/京都市伏見区下鳥羽広長町 203
TEL / 075-612-2785
Web http://zensin.jp/
< 事業内容 >
イベント・展示会の企画、デザイン設計施工、サイン・ポップデザインの製作、什器の販売・レンタルなど



同社のビジネスモデルを語る前田社長



LED照明などを駆使した展示装飾が顧客の支持を集める



仮囲いシステム『ECOPA』。店舗イメージに応じた展開も可能。

解説

知恵のポイント

得意技を磨き、 自社の“懐”で勝負する

展示会の企画や施工を手がける企業の中には、100年以上続いているところがたくさんあるといえます。これら老舗企業が培ってきた技術やノウハウをすぐに真似することは難しいでしょう。創業10年目のまだ若いゼンシンでは、先発企業と同じ土俵で勝負するのではなく、低コスト・スピード・エコという観点から、独自のユニット商品を開発・提供しています。展示会そのものの数や規模が縮小傾向にある中、同社のビジネスモデルは「出展には大がかりな準備とコストが必要で、大量のゴミが出る」というこれまでの概念を覆すもので、顧客の心を確実にとらえているようです。

同社が開発した「ECOPA」は、まさに業界の常識を見直すことから生まれたものです。店舗の仮囲いを施工するとき、火花が飛び散り、大きな騒音が出るのは当たり前。しかし、自社が培ってきたノウハウを見直し、物事を眺める角度をほんの少し変えれば、「もっと効率的で、環境に優しい手法はないか」という発想にたどり着くはず。この次世代仮囲いシステムは、単にリユース可能なエコ商品というだけでなく、デジタル技術や通信技術を融合させることによって、効果的な集客につながる宣伝広告媒体としての可能性を秘めています。将来のビジネスチャンスを見据えたプラスの付加価値が、大きな魅力となっているようです。